

ORGANIZATION FOR PROMOTION OF RESEARCH AND INNOVATION

2018

国立大学法人 九州工業大学

イノベーション推進機構 グローバル产学連携センター

〒804-8550
福岡県北九州市戸畠区仙水町1番1号 コラボ教育支援棟2階

TEL. 093-884-3485

FAX. 093-881-6207

E-mail. office@ccr.kyutech.ac.jp

<http://www.ccr.kyutech.ac.jp/>

国立大学法人 九州工業大学
イノベーション推進機構 NEWS

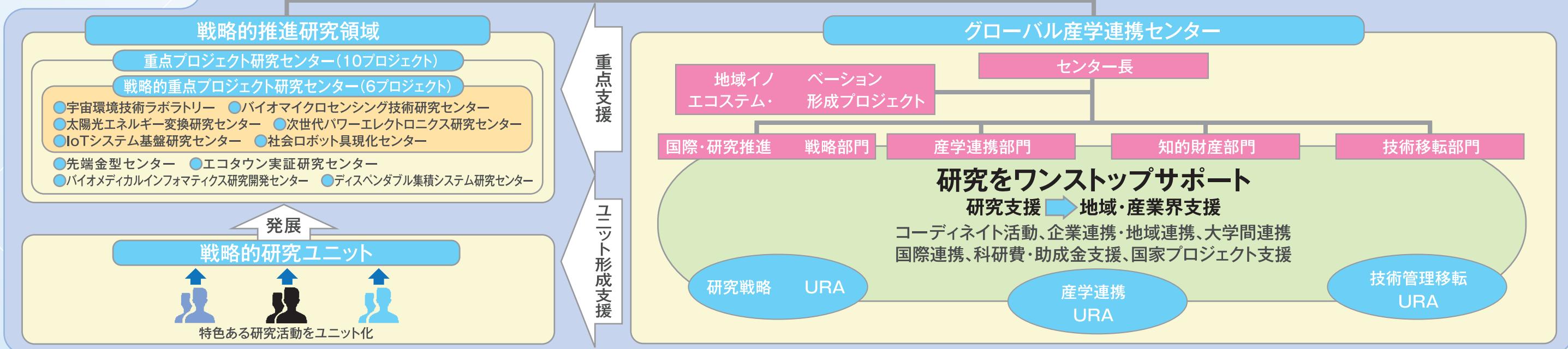


01

イノベーション推進機構の組織

組織図
部門紹介

organizational structure



部門の紹介

国際・研究推進戦略部門 (部門長: 安藤 義人)

主な業務

- 本学の研究活動の調査・分析・評価
- 本学の研究者の研究資金の獲得、研究プロジェクトの企画・立案、資金獲得及び業務支援や進捗管理、それらにかかる情報提供。
- 海外研究機関等との連携、協力体制の構築、及び国際的活動の企画立案及び支援

近年の産業構造の変化やグローバル化などにより、社会構造は急速に変化しています。社会に連續的・持続的なイノベーションを引き起こすためには、スピード感・多様な視点での研究が求められます。研究者と共に大学が自ら新たな社会的価値を創造できるように国際連携を促進し、積極的に研究者への支援を行っていきます。産・官・学との密接な連携をおこない、本学の強みである環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス分野などの研究シーズを活用し、中長期的な戦略による国際的な研究拠点化、研究外部資金の獲得を支援していきます。



産学連携部門 (部門長: 本多 信幸)

主な業務



部門の紹介

知的財産部門 (部門長: 柳楽 隆昌)

主な業務



技術移転部門 (部門長: 荻原 康幸)

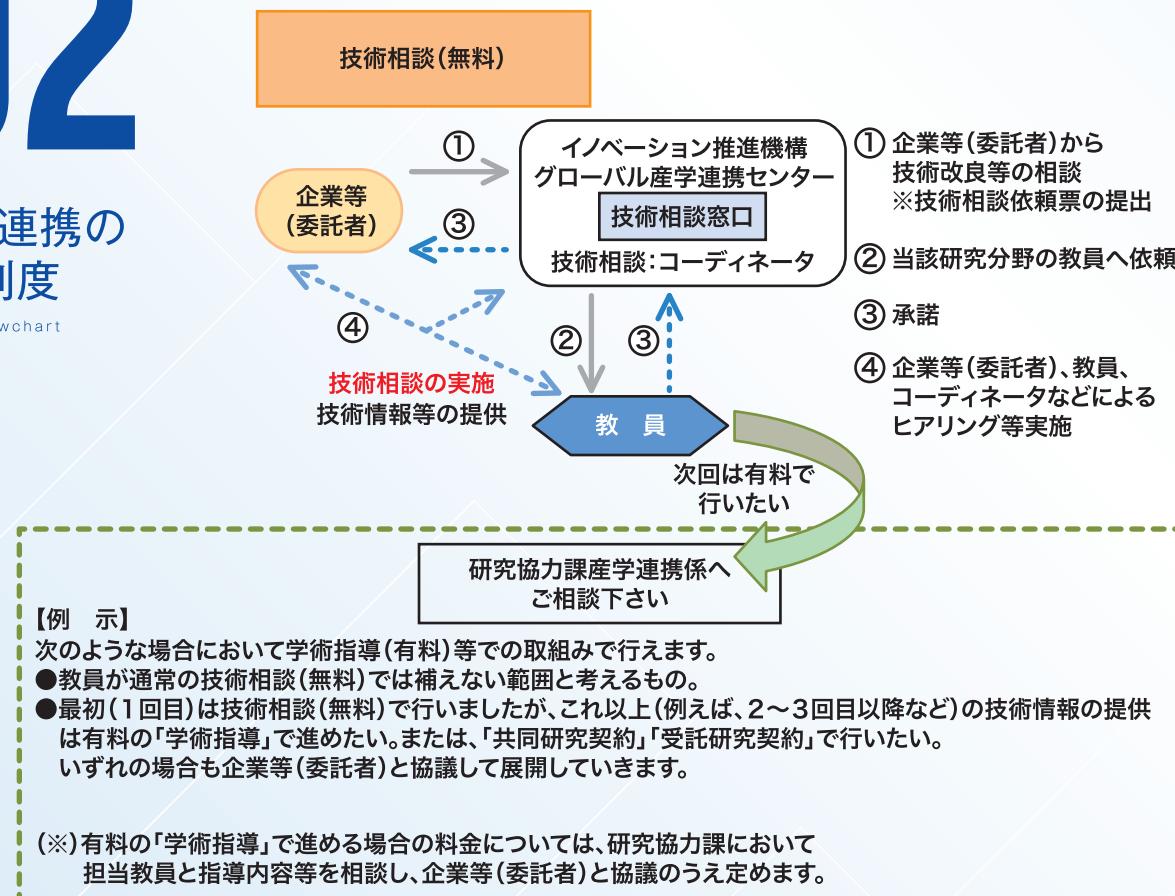
主な業務



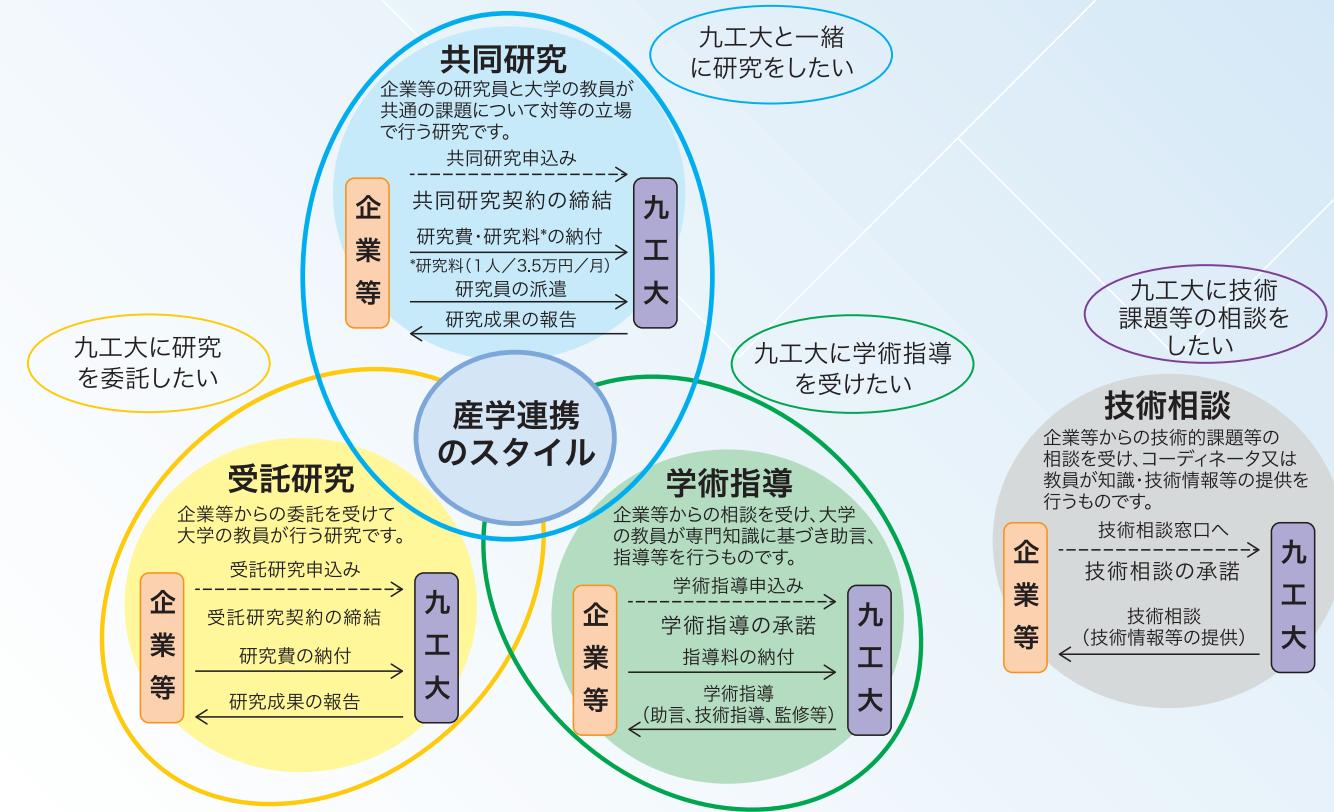
02
産学連携の
制度

Flowchart

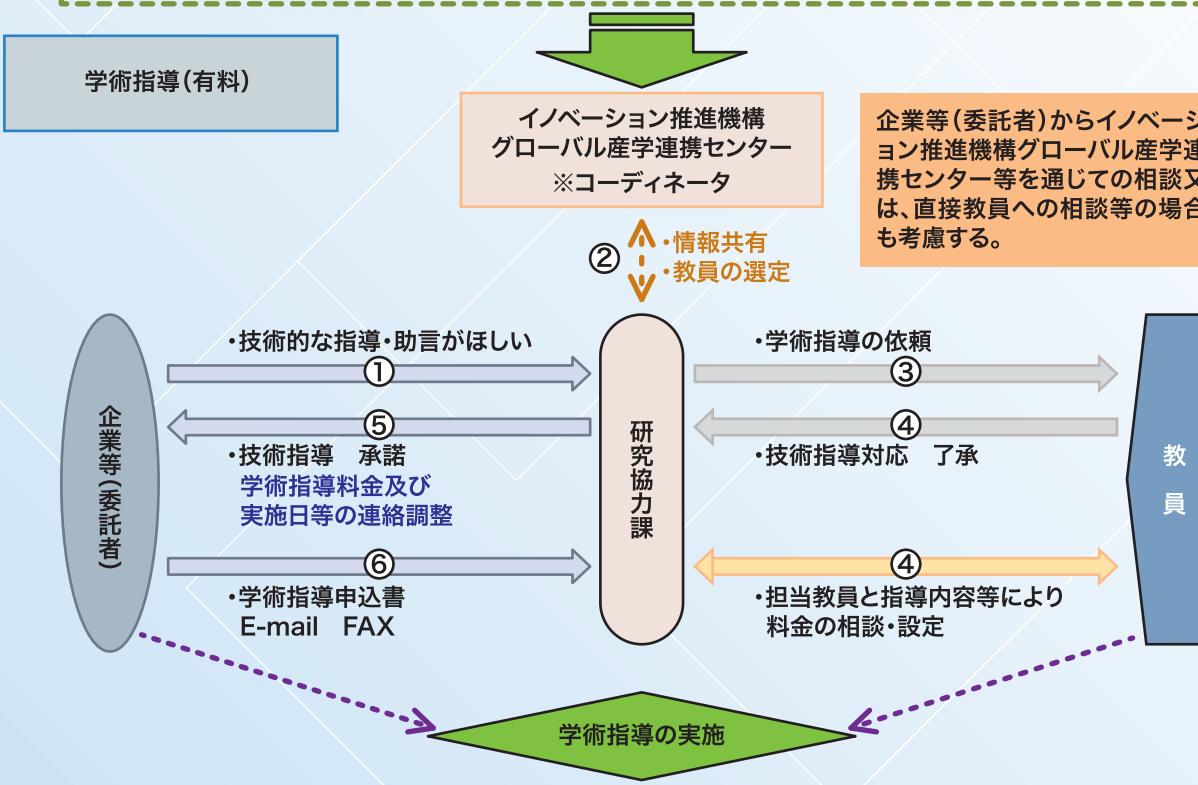
技術相談及び学術指導の実施パターン



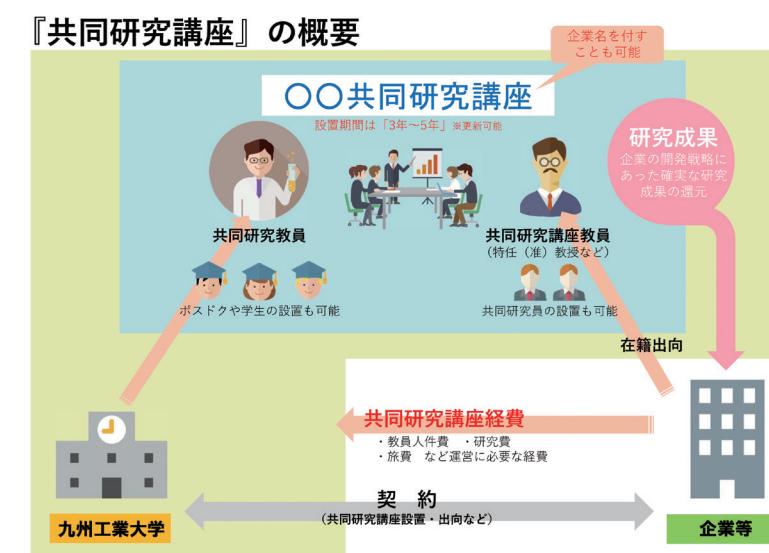
産業界(企業)との連携制度について



共同研究講座等の制度について



『共同研究講座』の概要



メリット(共同研究との違い)

- 共同研究講座教員の存在により、共同研究が加速します。
- 大学の研究者として外部と交流できます。
- 学内リソースに関係者としてアクセスできます。
- 新規テーマが出てきた場合も、元に契約に追加していくため、契約がスムーズです。
- 「特任教授」「准教授」等の役職がつき、研究者のモチベーションアップになります。
- 学生に対して大きなPR効果があります。

設置事例

平成30年4月現在

- 半導体シリコンエハ関連企業様
 -平成29年7月設置(生命体工学研究科)
- 総合エレクトロニクスマーカー様
 -平成29年11月設置(工学研究院)
- 総合教育機関様
 -平成30年4月設置(情報工学研究科)
- 自動車部品メーカー様
 -平成30年4月設置(工学研究院)
- 総合プラント建設会社様
 -平成30年4月設置(生命体工学研究科)

現在、5講座が設置済み。

各種制度の比較について

	受託研究	共同研究	共同研究講座	寄附講座
知的財産権	大学に帰属	共有可(*)	共有可(*)	大学に帰属
学内・学外PR	-	-	講座名に企業の名称使用可	講座名に企業の名称使用可
連携する教員(九工大)	企業が希望する教員	企業が希望する教員	企業が希望する教員	大学側が招へいする教員
企業からの派遣	-	共同研究員(任意) 研究料=月額35,000円	◎共同研究講座教員(必須) ⇒特任教授、 特任准教授等の称号付与 ◎民間等共同研究員(任意) ⇒研究料=月額35,000円 ただし、協議により免除可	大学が招へいした教員となつた場合は可能
運営/進め方	大学が実施	大学と企業が共同で実施	大学と企業が共同で運営 (大学幹部が関与)	大学側が運営
税制上の優遇	-	特別試験研究税額控除制度	増加試験研究費税額控除制度 特別試験研究税額控除制度	全額損金算入可
間接経費等	原則、直接経費の20%	原則、直接経費の20%	原則、直接経費(共同研究講座 教員の人事費を除く)の30%	共通経費として、 内数で10%相当

*協議の上、以下の取扱いから選択できます

①本学と外部機関の貢献率により持分を定めて共有する取扱い

②貢献率によらず持分を定めて両者が共有する又はいずれか一方の当事者が単独で保有する取扱い

③いずれか一方の当事者の持分を他方の当事者に持分譲渡する取扱い

	受託研究	共同研究	共同研究講座	寄附講座
メリット	・希望する教員に依頼 ・企業は研究に関与不要	・希望する教員と連携 ・知財は共有可(*) ・共同研究員が学位を取得できる可能性 ・大学リソースのフル活用 ・学生へのPR効果大		
留意点	・知財は大学帰属	・企業も研究に関与	・共同研究講座教員は大学が雇用 (人件費相当は研究経費として大学へ。 大学の職務規定に服す)	・教員は大学が招へい ・知財は大学帰属 ・寄附であり、研究成果は対価ではない

03

数字で見る 九工大の 産学連携

Industry-university
cooperation of the kyutech
to look at the numbers

九州工業大学の産学連携実績 (2008~2017年度)

共同研究・受託研究契約実績の推移

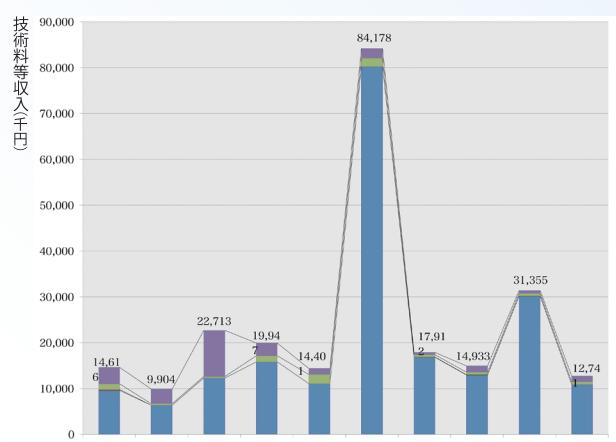


●企業との申請時連携実績 (企業と一緒に申請した外部資金数) (件)

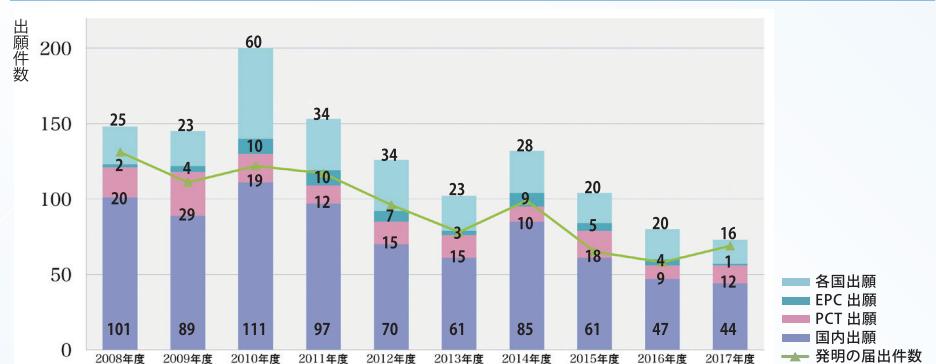
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	計
共同研究	19	18	16	53
受託研究	46	34	30	110
計	65	52	46	163

※機構ニュース打合せの際に要望があった、企業と一緒に申請した外部資金の件数(※産学連携係より回答)

技術料等収入の推移



発明の届出と特許出願件数の推移



04

事業 活動報告

Activity report

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）は、平成19年3月に発足し、産学官連携のプラットフォームとしての活動に取り組んでいます。会員数は、法人会員、個人会員をあわせて約700名を数えます。

平成29年度は、それまでの活動を振り返ってリニューアルを行いました。具体的には、毎月開催していた月例セミナー「三木会」を見直し、5月、7月、9月、11月に大学の研究活動や技術シーズの紹介、1月、2月、3月に、事業開発ビジネス講座と合わせ、産や官からお話ししていただくこととしました。会員向けメールマガジン配信等の情報提供事業や、マッチング支援等は継続して取り組んでおります。

三木会	5月	7月	9月	11月
講演	講師：大学研究会			
座談会	講師を囲んで ディスカッション			

事業開発 ビジネス講座	1月	2月	3月
講師：産業界、行政			
新しいビジネスのヒント、 成長戦略や支援制度等の情報			

「三木会（さんもくかい）」の開催

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者の交流の場として、平成17年度から「三木会」を開催しています。平成29年度は、下記のとおり開催しました。

●「三木会（さんもくかい）」の開催状況

日 時	テ マ	講 師	
		所属・役職	氏 名
平成29年5月18日	ソフトエレクトロニクスの時代における無機ナノ材料 製造技術としてのゾル-ゲル法の可能性	工学研究院 物質工学研究系	下岡 弘和 氏
平成29年7月20日	たまごを用いた生体シミュレータの開発	生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻	川原 知洋 氏
平成29年9月21日	画像処理やセンサーの応用事例の紹介 －産学連携活動を通じて－	工学研究院 先端機能システム工学研究系	脇迫 仁 氏
平成29年11月16日	エンドミル加工と放電加工の高精度化に向けて -図形的なアプローチの紹介-	工学研究院 機械知能工学研究系	吉川 浩一 氏
平成30年1月18日	(事業開発ビジネス講座)北九州市が進めるロボットやIoT等の取り組み ・ロボット・IoT・AI等を活用した 生産性向上支援策について	北九州市新産業振興課 ロボット産業担当係長	西岡 紀夫 氏
	インフラ等点検ロボット実用化研究会のご紹介	北九州市新産業振興課 基盤技術担当係長	新井 章太 氏
	i-Constructionにおける無人機の活用実例	(一社)無人機研究開発機構 理事長	丹 康弘 氏
	(事業開発ビジネス講座)平成29年度第2回大学合同新技術説明会・技術相談会		
平成30年2月6日	<本学発表> 温度むらがなく設置しやすい画期的な冷暖房 ビニールハウス(熱交換冷暖房ビニールハウス構造体)		工学研究院機械知能 工学研究系 谷川 洋文 氏
	直線に特化したライン引き装置		生命体工学研究科人間 知能システム工学専攻 宮本 弘之 氏
	平成29年度第2回大学合同新技術説明会・技術相談会		
平成30年2月15日	デジタル社会における 事業開発の視点		株式会社 NTTデータ経営研究所 アソシエートパートナー 桑島 八郎 氏
	産学連携/ 研究開発支援制度の説明会		九州経済産業局 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 科学技術振興機構(JST) 北九州市 北九州産業学術推進機構(FAIS)
平成30年3月15日			



7月の三木会で講演する川原先生



11月の三木会で講演する吉川先生

事業開発ビジネス講座

九州工業大学では、地域企業の競争力強化を支援し、産学連携の更なる推進を図るために、平成17年度から公開講座として、広く社会人を対象とした「事業開発ビジネス講座」を毎年開催しています。例年、西日本シティ銀行に共催を頂き、講師紹介等の支援を頂いています。

平成29年度の事業開発ビジネス講座は、「～未来投資によるビジネス創造～」をテーマとしました。IoT、ビッグデータ、ドローン、ロボット、AI・・・これらのキーワードが、世の中に急速に広がり、政府の成長戦略も、昨年までの「日本再興戦略」から「未来投資戦略」となりました。新たなモノ、技術、価値への挑戦、そしてそれらを自らのものとしていく姿勢が求められていることから、IoTやAI等での実例の紹介（第1回、第3回）、未来に向けて新たな挑戦をするための技術シーズ（第2回）とツール（第4回）の紹介で構成しました。

開催の概要

●全体テーマ ～未来投資によるビジネス創造～

日 時	テ マ	演 題・講 師	
		演 題	講 師
平成30年1月18日	北九州市が進めるロボットや IoT等の取り組み	ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上 支援策について	北九州市新産業振興課 ロボット産業担当係長 西岡 紀夫 氏
平成30年2月6日	平成29年度第2回大学合同新技術 説明会・技術相談会	インフラ等点検ロボット実用化 研究会のご紹介	北九州市新産業振興課 基盤技術担当係長 新井 章太 氏
平成30年2月15日	デジタル社会における 事業開発の視点	i-Constructionにおける無人機の活用実例	(一社)無人機研究開発 機構 理事長 丹 康弘 氏
平成30年3月15日	産学連携/ 研究開発支援制度の説明会	<本学発表> 温度むらがなく設置しやすい画期的な冷暖房 ビニールハウス(熱交換冷暖房ビニールハウス構造体)	工学研究院機械知能 工学研究系 谷川 洋文 氏
		直線に特化したライン引き装置	生命体工学研究科人間 知能システム工学専攻 宮本 弘之 氏



第1回で講演する新井様



会場の様子

一般財団法人工業所有権協力センター 平成 29 年度 大学知財活動助成事業報告

九州工業大学では、九州大学、熊本大学とともに、九州地域内の他の大学に呼びかけ、産学連携部署、知的財産関連部署のネットワーク化（KTC（Kyushu Technology Collaboration））を進めています。

この KTC の活動の一環として、九州地域社会のニーズと大学の知との融合を通じて、九州地域における産学連携を推進する「複数の大学連合が協働して地域の中小企業の顧在・潜在的ニーズに対応し、技術移転や産学連携を推進するモデルの構築」に取り組んでいます。九州工業大学が申請代表者となって、平成 27 年度から一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）の助成を受けて進めており、①各大学と合同での新技術説明会・技術相談会や、②各大学の知財担当者・産学連携コーディネータのスキルアップを図るための研究会（勉強会）等を行っています。

平成 29 年度も、前年度に引き続き、2 回の大学合同新技術説明会・技術相談会を開催しました。1 回目は、マリンメッセ福岡で開催された「モノづくりフェア 2017」を会場に、北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議（事務局：福岡県商工部自動車産業振興室）と連携して、「自動車関連技術・ものづくり技術」をテーマに行いました。

2 回目は、福岡市において、福岡県が事務局をつとめる九州・山口ベンチャーマーケットと連携し、ベンチャー企業が興味を示しそうな特許シーズを取り上げました。

特に今年度1回目の発表会は、ものづくり関連企業が多数集まる「ものづくりフェア」内での開催とあって、たくさんの方々に参加を頂きました。効率的なシーズ発信により、ニーズ・シーズのマッチングの確度は向上したと考えています。

参加大学は、九州工業大学、九州大学、熊本大学の他に、長崎大学、大分大学、山口大学、北九州市立大学、福岡大学、西日本工業大学の9大学が参加しました。特に西日本工業大学は今回はじめて参加をいただきました。発表シーズは、計 17 シーズ（ポスター発表を含む）となりました（本学からは、第1回1件、第2回2件発表）。各大学の知財担当者や産学連携コーディネータによる技術相談も行っています。

知財担当者・産学連携コーディネータの研究会（勉強会）についても、「KTC 産学官連携研究会」と銘打ち、2 回開催しました。全員参加型のディスカッション形式で実施し、各大学が抱える実務上の悩みごと等をテーマに、相互の事例の共有や、解決に向けた活発な議論を行いました。

IPCC の助成を受けての事業は平成 29 年度が最後となりましたが、こうした大学の知的財産、産学連携関連部署のネットワークは非常に有効であり、KTC の活動は今後も継続していく予定です。



大学合同新技術説明会・技術相談会

第1回 テーマ「自動車関連技術・ものづくり技術」

連携機関：北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議

参加大学：九州工業大学、九州大学、熊本大学、長崎大学、大分大学、福岡大学、西日本工業大学、北九州市立大学、山口大学
発表シーズ：10 件（ポスター展示含む）

● 九州工業大学発表シーズ

鋼板とアルミニウムを TIG 溶接
(工学研究院 物質工学研究系 山口 富子 准教授)

第2回 テーマ「ベンチャー企業向けシーズ」

連携機関：九州・山口ベンチャーマーケット（福岡県）

参加大学：九州工業大学、九州大学、熊本大学、大分大学、福岡大学、北九州市立大学
発表シーズ：7 件

● 九州工業大学発表シーズ

温度むらがなく設置しやすい画期的な冷暖房ビニールハウス（熱交換冷暖房ビニールハウス構造体）
(工学研究院 機械知能工学研究系 谷川 洋文 助教)

直線に特化したライン引き装置
(生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 宮本 弘之 准教授)

※「九州・山口ベンチャーマーケット 2018」と同時開催



第2回大学合同新技術説明会・技術相談会の様子

05

イベント
カレンダー

EVENT CALENDAR

イベントカレンダー

6月

●西日本製造技術イノベーション 2017 に出展

西日本総合展示場（北九州市）で開催された「西日本製造技術 2017」に、工学研究院の芹川研究室から楊世淵助教が「LED 照明と PSD カメラを用いた無人搬送車の走行ガイドシステム」をテーマに展出を行いました。また、特別展示の CFRP（炭素繊維強化プラスチック）の世界展では、工学研究院の森直樹研究室から CFRP の加工品や切削工具等の展示を行いました。

●九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会
総会・展示会に出展

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（通称：SIIQ）の平成 29 年度定期総会にあわせて展示会が開催され、本学のマイクロ化総合技術センターが展出しました。

●九州環境エネルギー産業推進機構 総会・展示会に出展

九州環境エネルギー産業推進機構（通称：K-RIP）の平成 29 年度定期総会にあわせて展示会が開催され、イノベーション推進機構として展出しました。

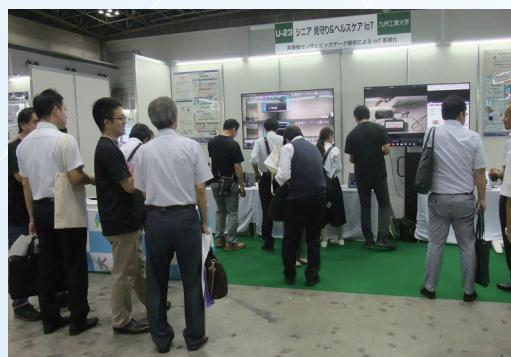
●地元企業の団体が本学を視察

北九州市に支店等を持つ企業の集まりである「ブランチリーダーの会」（事務局＝北九州商工会議所）に、本学を視察頂きました。宇宙環境技術ラボラトリーや、資料館を見学頂きました。

●イノベーションジャパン 2017 ~大学見本市&ビジネスマッチング~ に出展

東京ビックサイトにおいて開催されたイノベーション・ジャパン 2017 に、大学等シーズ展示から、生命体工学研究科の西田治男教授とイノベーション推進機構の佐藤 寧教授が出展し、ブース内で研究成果の説明およびプレゼン会場にてショートプレゼンを行いました。

また前年度の引き続き大学組織展示に展出し、本学が持つ「最先端センシング」「AI 行動認識」と北九州市が持つ豊富な実証フィールドを活かした次世代 IoT ソリューションについて動画を用いた説明を行うとともに、イノベーション推進機構の三谷康範教授と相馬功特任教授が「シニア 見守り＆ヘルスケア IoT ～非接触センサとビックデータ解析による IoT 事業化～」と題し、プレゼンテーションを行いました。



↑イノベーションジャパンの様子

(大学等シーズ展示)

テーマ	発表者
未利用資源"竹"を一般工業資材に変換!	大学院 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻教授 西田 治男
ドライバモニタリングの研究開発	イノベーション推進機構 産学連携・URA領域教授 佐藤 寧

10月

●エコテクノ2017 ～エネルギー先端技術展～ に出展

西日本総合展示場（北九州市）で開催された「エコテクノ2017」に工学研究院先端機能システム工学研究系 孫研究室、工学研究院電気電子工学研究系 山脇研究室、工学研究院物質工学研究系の坪田研究室が展出しました。孫教授は「車載リチウムイオン電池電極劣化に関する機械的特性評価」、山脇准教授は「待機電力ゼロ型センサノードを用いた超省電力センサネットワークの開発」、坪田准教授は「竹を原料とした高付加価値材料の段階製造」をテーマに、シーズ発表を行いました。

●しんきん合同商談会（九州北部信用金庫協会主催）に出展

●平成 29 年度第 1 回 KTC 大学合同新技術説明会・技術相談会を開催

11月

●第2回広域技術マッチングフェア（株式会社 YMFG ZONE プランニング）に出展

本学からは、「シニア 見守り＆ヘルスケア IoT のための AI 行動認識技術」（井上准教授）及び「高クロム・ニッケルフリーステンレス鋼」（恵良教授）を展出しました。

●平成 29 年度第 1 回 KTC 大学合同新技術説明会・技術相談会を開催

●西日本国際福祉機器展に出展

タン・ジュークイ准教授が出展し、「自己装着カメラを用いた指文字認識システム」等の紹介を行いました。

12月

●新技術説明会（東京 JST 本部）に本学研究者が展出

九州工業大学 新技術説明会（平成 29 年 12 月 12 日 JST 東京本部）



新技術説明会の様子

タイトル	発表者
複数の高付加価値製品を産むバイオマス利用製造プロセス	大学院工学研究院 物質工学研究系 准教授 坪田 敏樹
原理が簡単で機器への実装が容易なパターンマッチング法	大学院工学研究院 先端機能システム工学研究系 准教授 脇迫 仁
追跡対象を粘り強く追いかけ続ける「賢い目」	大学院情報工学研究院 知能情報工学研究系 教授 榎田 修一
パワーデバイスの故障予測を可能にするモニタリング技術	大学院工学研究院 電気電子工学研究系 助教 渡邊 晃彦
熱交換冷暖房ビニールハウス構造体	大学院工学研究院 機械知能工学研究系 助教 谷川 洋文
電磁石で固さを制御できる万能ロボットハンド	大学院工学研究院 機械知能工学研究系 准教授 西田 健
直線に特化したライン引き装置	大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授 宮本 弘之
ECTAによるがん診断装置	大学院工学研究院 物質工学研究系 応用化学部門 教授 竹中 繁織

●知的財産セミナーを開催

平成29年12月18日に内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官補佐の森本哲也氏をお招きし、「宇宙と特許～今、そこにある危機～」と題しまして知的財産セミナーを開催しました。

セミナーには、本学教職員のほか他大学から多くご参加頂き、参加者は、宇宙空間での特許の取り扱いや、国際的な宇宙環境利用についての我が国の取組みや課題など幅広く内容の濃い講演に熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われました。

●事業開発ビジネス講座（第1回）を開催

●大分県自動車関連企業会主催の学生向け「自動車関連工場見学バスツアー」に参加

訪問先：ダイハツ九州株式会社、株式会社ヨロズ大分

1月

2月

3月

●平成29年度第2回 KTC 大学合同新技術説明会・技術相談会を開催

第2回事業開発ビジネス講座を兼ねる

●事業開発ビジネス講座（第3回）を開催

●事業開発ビジネス講座（第4回）を開催

06

九工大 概要

Overview

九州工業大学の概要

学生数（人）

	工学部/工学府 (戸畠)	情報工学部/ 情報工学府(飯塚)	生命体工学研究科 (若松)	合計
総 数	2,959	2,277	413	5,649
学部生	2,286	1,831	0	4,117
大学院生	673	446	413	1,532

職員数（人）

教育職員総数	348
工学研究院	138
情報工学研究院	110
生命体工学研究科	40
教養教育院	29
その他	31
その他研究系職員	104
事務・技術系職員	196
総 数	648

I 工学部・大学院工学府（戸畠キャンパス）

「ものづくり」の基本を備えた技術者の養成

学 部：工学部 6学科

大学院：工学府
(博士前期課程) 5専攻

機械知能工学専攻、建設社会工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻、先端機能システム工学専攻
(博士後期課程) 1 専攻 工学専攻

II 情報工学部・大学院情報工学府（飯塚キャンパス）

情報を基盤に国際的に視野を持つ高度技術者の養成

学 部：情報工学部 5学科

大学院：情報工学府
(博士前期課程) 3 専攻 先端情報工学専攻、学際情報工学専攻、情報創成工学専攻

(博士後期課程) 1 専攻 情報工学専攻

III 大学院生命体工学研究科（若松キャンパス）

生命科学を応用するシステム技術者の養成

(博士前期課程) 2 専攻 生体機能応用工学専攻、人間知能システム工学専攻

(博士後期課程) 1 専攻 生命体工学専攻

07

職員紹介

Staff

産学連携URA(コーディネーター) (TEL: 093-884-3485 E-mail: office@ccr.kyutech.ac.jp)

	コーディネーター (客員教授) 山崎 博範		コーディネーター (客員教授) 吉田 剛
専門分野 機械工学(製品開発、精算設備設計、プレス金型)			専門分野 機械工学、情報処理、ものづくり支援

	コーディネーター (客員教授) 福田 隆三		コーディネーター (客員教授) 太田 範雄		コーディネーター (客員教授) 佐藤 幸則
専門分野 知的財産、電子工学			専門分野 電気デバイス(薄膜形成・微細加工・分析評価)、ものづくり支援、経営計画策定	専門分野 電気工学(磁気応用、電気機器)、知的財産	

研究戦略URA (TEL: 093-884-3565 E-mail: ura-office@ccr.kyutech.ac.jp)

URA(教授) 諫山 宗敏	URA(教授) 倉田 奈津子	URA(助教) 米澤 恵一朗	URA(地域イノベーションエコシステム形成プログラム担当) 船本 大起

技術管理移転URA(知財マネージャー) (TEL: 093-884-3499 E-mail: chizai@jimu.kyutech.ac.jp)

知財マネージャー(客員教授) 石田 精	知財マネージャー(客員教授) 堀川 恵	知財マネージャー(客員教授) 小柳 嗣雄	専門分野 ナノ材料の合成とその工業的応用、利益相反

08

九工大の装置、機器利用案内

Apparatus and equipment Works

九州工業大学装置、分析・測定機器等の利用案内(学外の方も利用できます)

本学が保有している大型装置、分析機器、測定機器等について、学外の方も利用できます。問合せ先、申し込み、使用料金等の詳細は次のURLを参照下さい。

依頼測定の受け入れと装置一覧
<http://www.kyutech.ac.jp/research/request/>

機器分析センター (所在地: 戸畠キャンパス)

各種の高性能大型分析機器等により、分析、測定及び解析等が行えます。

http://www.kitcia.kyutech.ac.jp/HP/src/GUIDANCE/GUIDANCE_01.html

宇宙環境技術ラボラトリー (所在地: 戸畠キャンパス)

超小型衛星の開発に必要な振動試験、熱真空試験、熱衝撃試験など様々な環境試験、測定及び解析が行えます。

http://cent.ele.kyutech.ac.jp/activity_j.html

マイクロ化総合技術センター (所在地: 飯塚キャンパス)

集積回路や半導体デバイスの設計製造等に必要な設計・製造・評価・観測などが行えます。

http://www.cms.kyutech.ac.jp/know/HP/price_list.html

先端金型センター (所在地: 飯塚キャンパス)

金型試料の加工、測定及び試験などが行えます。

<http://cim.mse.kyutech.ac.jp/kanagata/index.html>

※トップページ ⇒ センター概要 ⇒ センター利用

